

令和2年3月議会の答弁

森上 昌生 議員



森上 現市長の施策に批判を持つ市民に「その方が全て批判的ということであれば、この高梁にお住まいになるということがどうなのか」という話にもなりますね」との発言があったが、この考え方は変わらないか。

市長 基本的には理解をいただくように努めると申しあげた。
森上 最初の質問に、批判的な方は高梁市に住むことがどうなのか、高梁から出ていかれたらというような、発言だった。高梁に住むことがどうなのかという発言。これは本当にとんでもない発言だ。
市長 今議員が言ったような言葉を言っていないので、議事録を見ていただいても結構だ。全部の施策にというのがあったと思う。

森上 全てに批判的になるというような表現は事実です。全部市長の考え方に反対したからといって、高梁から出ていく必要があるのか。
市長 そういう言葉は使っていない。

森上 「高梁市へお住まいになることがどうなのか」というのは、出ていけということの同義語ではないか。
市長 議員が言った言葉として理解する。そういう言葉を言っていない。批判を一つでも解消し、住み続けていたいただきたい。
森上 説明をされても納得しないという人は、結局は出ていかなきゃならないのか。
市長 議員がそういう言葉を使うが、そういう気持ちでない。
森上 これ以上は水掛け論だ。

新型やくもで沿線自治体と連携を!!

公共交通（地方路線バス運行）について

平松 久幸 議員



平松 学校再編（松原小学校から高梁小学校）に伴い、高学年、低学年それぞれの下校時間に合わせ、既存の路線バスの時刻表の見直しはするのか。

教育長 準備委員会などで、既存の時刻表で決定しているが、要望も出ている。考えていきたい。

平松 宇治小中学校は成羽小学校へスクールバスで登下校する際、市民は利用できるのか。

教育長 スクールバスの規則では、混乗、市民も乗ることはできる。今後公共交通会議などで議論される。

伯備線新型やくもについて

平松 4月から特急やくも号が新型車両で運行を開始したが、乗降客は増えたのか。

市長 岡山から新見駅間の特急利用者数はゴールデンウィーク期間（4月26日～5月6日）対前年比15%増の4万7100名であった。備中高梁駅の乗降者数も増えている。

平松 新型やくもを生かした取り組みはできないか。

市長 岡山から出雲まで沿線自治体での連携は非常に大切である。山陰と山陽側で一緒にできることを検討する必要がある。米子市長、松江市長とも連絡を取り合い、しっかりと内容を詰めていきたい。

通常の管理や施業で多面的機能支払交付金を

多面的機能支払交付金について

新倉 淳 議員



が今回のチラシの案内である。中山間の6期目が令和7年より始まる。

新倉 「中山間地域等直接支払交付金を取り組んでいるみなさん！」のチラシに書かれた多面的機能支払交付金広域協定について内容の説明を願う。
副市長 多面的機能支払交付金は中山間の交付金に比べて安い割に事務が煩雑であり、細かな報告まで求める事がある。そのため、なかなか取り組みにくいのが実情であろつかと思う。煩雑な事務を少しでも市の方が支援するので、全的に取り組んでいこうという

多面的機能支払交付金も同時にスタートすれば取り組みやすいのかと考える。市で事務の取り扱いを共同するという事が広域化。それには当然事務人件費がかかるので、交付金のいくらかは事務手数料として徴収させてもらうという形で、現在検討している。
新倉 農産物を作るために当たり前の作業をして交付金が出れば、所得の引き上げにもなり、一部事務負担金が必要でも大いに活用すべきである。

市立小中学校の制服・体操服等は将来の負担を考え統一すべき

住宅リフォーム事業費補助金について

伊藤 泰樹 議員



伊藤 あまりにも短期間で受付を終了しており、早々に追加補正を検討するべきではないか。
市長 財源確保の目途が立ち次第、9月補正予算に計上したいという思いを持っている。

工事契約について

伊藤 契約の締結状況の見える化とは何なのか。

市長 誰にでも分かりやすくだろうと私は理解する。行政用語を控え、誰でもが分かりやすい表記の仕方に、できることから直ちに取り組んでいく。

学校園の適正配置について

伊藤 廃校になった小・中学校の

校歌の音声データを市ホームページで聴けるようにできないか。
教育次長 掲載できるように検討し、対応していきたい。

ふるさと納税について

伊藤 外部委託事業を内製化するべきではないか。

政策監 研究していきたい。
伊藤 職員の資質向上のため、先進地を視察され取り入れてほしい。

公共施設再配置方針について

伊藤 市民にしっかりと説明し、市民の声を受け止めながら前に進めるべきではないか。

市長 不転の決意で取り組ませていただく。また新たな財源の確保にも努める。